

平成28年度第2回浦河町社会教育委員会議録

■日 時 平成29年3月22日(水) 18:30～19:30

■場 所 浦河町総合文化会館 2階 第3研修室

■出席者 <社会教育委員> 11名
津澤静子委員長、松本正美副委員長、郷範昭委員、郷家丈史委員、
坂本廣子委員、三浦敦子委員、谷川雅隆委員、松田芳宏委員、
大野初美委員、関口明子委員、米山豊委員

【欠席委員】 9名
生田仁志委員、奥村尚久委員、小林光紀委員、菅正輝委員、奈良淳弘委員、
柵山和宏委員、久保珠里委員、野上由佳委員、向谷地悦子委員

<教育委員会>
岡内教育長、吉野社会教育課長、白浜主幹、民部主幹、菊地主任、
橋本社会教育主事、早坂主事

1. あいさつ

2. 報告事項

- (1) 平成28年度浦河町社会教育委員活動報告について、別紙資料1に基づき事務局より説明
質疑なし
- (2) 管内社会教育委員研修会について、別紙資料2に基づき事務局より説明
(A委員) 参加してみて他の町の方の意見を聞けて非常にいい機会であった。
- (3) 平成29年度新規事業について、別紙資料3に基づき事務局より説明
質疑なし

3. 協議事項

- (1) **第59回全国社会教育研究大会北海道大会について、事務局より説明**
(事務局) 平成27年度に浦河町で開催した第55回北海道社会教育委員研究大会を行った
が、その全国大会が平成29年度に札幌で開催。
日高管内の役割としては、一般参加者の受付があたっており、詳細についてはま
だ何もきていないため、追って連絡するが、ぜひこの大会に参加していただきた
い。平日であるが、予定をあけて参加していただきたい。

2) 平成29年度に向けての要望・意見等

(事務局)

平成29年度は、劇団四季の「こころの劇場」というのは劇団四季が講演料を
負担していただいて、ミュージカルを見せてくれるということで、これは浦河だ
けじゃなくて様似、えりも3町の小学生高学年を対象にうちの会館を使って3年
に一度やるというもので、4～6年生の間に1度はミュージカルを見ることがで
きるというものになっている。

子ども会の事業は、こういう自然がたくさんある町に住んでいることもあって、

積極的にそれを取り入れた事業をやっていこうと思っている。

今の子どもは意外と虫とか植物とかを手にとって触る機会が少ないため、継続しながら、少しずつ内容を変えながら行っていこうと思っている。

芸術鑑賞事業については、今まではもっと高齢の方向けのものという感じであり、児童生徒芸術鑑賞は小学生向けで、30代とか40代、50代向けのは町ではあまりやっていなかった。

そこで今回はスターダストレビューというグループの公演を考えてみた。

また、若者の青年活動を自主的にやっていきたいということで「浦若塾」という取り組みを始めたが、ここに参加する若者たちも今回の芸術鑑賞事業の中心になって実行委員会を組む、積極的に参加してほしいと考えている。

(B委員) 子ども会の事業はやっているけど、実際は教育委員会に頼り切っている部分があって、我々役員も何とか参加している状態のため新しいものに手を出せる状態ではないし、毎年毎年変わった事業をやるのは大変。しかし今やっている事業はまだ飽きられていないので、まだ今の事業を1～2年はやっていっていいのかなあと思っている。

(C委員) 劇団四季を非常に楽しみにしている。
本校は修学旅行でも劇団四季の鑑賞を取り入れているが、子どもたちも非常に感激して帰ってくるので、その素晴らしさを3年に1回体験できるというのは、すごくうれしいことだと思う。

(D委員) この前のケロポンズのコンサートだが、こういう楽しいイベントを毎回企画していただき感謝したい。
11月には、夜回り先生で有名な水谷修先生に浦河で講演いただくことになっている。

(E委員) 生涯学習体験フェアの時などお手伝いしたが、そのときに子どもたちと接する機会が持てるので大事にしたい。
また、その地域にあった子どもの見守りのスタイルが大切だと思う。

(F委員) 青年活動「浦若塾」に参加してみて、楽しい人材が浦河にはいるなと感じており、私たちが自発的にやっていければ面白いなと感じている。

(G委員) 若手の後継者が少ない現状の中、若手の集まりの中では高齢の部類になってきている。人が少なくて団体から抜けられない状態になっているが、個人の仕事の中で責任を果たさなければならない立場になってきていて、外で活動する時間がなくなっていますが、何かできることがあればお手伝いしたい。

(H委員) ケロポンズのコンサートに参加させていただいて、大変楽しかったと喜んでいて。娘は私に、「ケロポンズの二人はあれが仕事なの？」って聞いてきて、子どもはそこまで考えているのだなど、とても貴重な体験をさせていただいた。

(A委員) 中学校のPTAの関係でここに出席していたがおかげさまで卒業しまして、子どもが浦河を離れることになったが、出来る限り参加していきたい。

(I委員) 今悩んでいることは各団体、自治会や老人クラブまたは年金もらっている方々の加入者が年々減ってきて、新しい事業も財政的に厳しい状態で組み込まれない

ようになってきている。

この傾向は浦河だけでなく、各地で言われているが、これどうなって行けばいいかなと。町内の老人クラブでいえば役員の成り手がいない、入っている会員が少ないということで実際に解散する団体もでてきている。

自治会も役員の成り手がいない、会員数も減ってきている。当然人口も減ってきているので、会員数も減るといことになれば自治会としても財政的にも厳しいので魅力ある事業ができないといったことも現実的に起きている。

これをどうしていけばいいのかと非常に大きな問題ではないかなと考えている。何かいい案があれば教えていただきたい。

(事務局)

自治会の問題、各団体の問題、老人クラブだけでなく、この文化会館を利用している文化団体やサークルも会員数の減少と、高齢化で活動ができないという状況になってきている。

先ほど子ども会の話が出ていたが、実際単位子ども会できちんと活動している団体は本当に一握りである。

その単位子ども会が出来ないからやらないではなく、子どもたちも外でやるさまざまな事業に飢えていると感じているので、浦河町子ども会育成連絡協議会がひとつの大きな団体としてやっていくしかないのではないかと考えている。

老人クラブも単位団体としてうまくいかないなら町の方で例えば今やっている九十九大学を大規模にして地区ごとにひとつの事業をやってみるとかそういう形で私たち教育委員会が維持していくしかないと思う。

何かやってみたいという提案があれば担当に相談してみしてほしい。

(J委員)

文化協会も高齢化で悩んでおり、今年度60周年を迎えたが、現在、記念誌の作成や文藝うらかわを作成しているが、教育委員会の担当に負担をかけてしまって本当に申し訳なく思っている。

記念すべき60周年にあたって教育委員会の力も借り、長年の念願でありました会の会旗が完成したことに感謝している。

4. 閉会